

令和3年度 全国学力・学習状況調査結果の概要について

ー 川崎市の児童生徒の学習・生活の状況 ー

令和3年5月27日に小学校6年生、中学校3年生を対象に実施した全国学力・学習状況調査の川崎市の調査結果（速報版）をまとめました。なお、本調査結果の詳細については、市教育委員会で分析した後、11月頃、川崎市総合教育センターのホームページに公表する予定です。

1 実施の状況

調査を実施した川崎市立学校は167校で、児童生徒合計約20,740人が参加した。

内 訳：小学校 114 校 中学校 52 校 特別支援学校 1 校（小学部・中学部）

参加人数：小学校調査 約 11,690 人 中学校調査 約 9,050 人

※ 小学校は第6学年、中学校は第3学年が対象

※ 調査の種類により調査人数は若干変動

2 教科に関する結果の概要

（1）教科に関する調査の平均正答数（問）と平均正答率（％）

ア 小学校調査

教科等	国語（14問）		算数（16問）	
	平均正答数 （問）	平均正答率 （％）	平均正答数 （問）	平均正答率 （％）
川崎市	9.3	67	11.7	73
全国	9.1	64.7	11.2	70.2

イ 中学校調査

教科等	国語（14問）		数学（16問）	
	平均正答数 （問）	平均正答率 （％）	平均正答数 （問）	平均正答率 （％）
川崎市	9.3	67	9.4	59
全国	9.0	64.6	9.1	57.2

※川崎市、全国の値は、公立学校の調査結果です。

（2）各教科調査結果の主な特徴

比較的よい状況と考えられる主な設問（◇）、課題があると考えられる主な設問（◆）は次のとおりです。

小学校◇国語 ① 三 「目的や意図に応じ、資料を使って話す」 （83.7%）

◆国語 ② 三 「目的に応じ、文章と図表とを結び付けて必要な情報を見付ける」 （40.8%）

◇算数 ④ (1) 「示された除法の結果について、日常生活の場面に即して判断する」 （85.4%）

◆算数 ④ (3) 「小数を用いた倍の説明を解釈し、ほかの数値の場合に適用して、基準量を1としたときに比較量が示された小数に当たる理由を記述する」 （52.5%）

中学校◇国語 ① 二 「質問の意図を捉える」 （93.4%）

◆国語 ③ 四 「文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ」 （23.1%）

◇数学 ⑥ (1) 「問題場面における考察の対象を明確に捉える」 （85.4%）

◆数学 ④ 「関数の意味を理解する」 （47.8%）

※（ ）の値は川崎市の平均正答率

3 児童生徒質問紙調査結果の概要

○継続している質問項目 ★新規の質問項目

※数値は「当てはまる」と「どちらかといえば当てはまる」等、肯定的な回答を合わせた値です。

学習に対する興味や授業の理解度			
○国語の授業の内容はよく分かる。	小学校	86.9%	中学校 83.0%
○算数・数学の授業の内容はよく分かる。	小学校	85.5%	中学校 78.5%
自己有用感等			
○自分には、よいところがあると思う。	小学校	79.1%	中学校 76.4%
○将来の夢や目標を持っている。	小学校	77.3%	中学校 65.2%
★自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている。	小学校	86.4%	中学校 84.5%
○難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦している。	小学校	73.0%	中学校 66.0%
学習習慣等			
○学校の授業時間以外の勉強時間 ※「普段（月～金）1日当たりの時間」			
・2時間以上	小学校	37.3%	中学校 51.6%
・30分以下	小学校	15.9%	中学校 9.0%
○家で、自分で計画を立てて勉強している。	小学校	72.4%	中学校 63.4%
地域や社会に関わる活動の実施状況等			
○今住んでいる地域の行事に参加している。	小学校	45.0%	中学校 31.2%
○地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある。	小学校	54.2%	中学校 39.5%
主体的・対話的で深い学びの視点による学習指導改善に関する取組状況等			
○5年生（中学校1、2年生）までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う。	小学校	82.1%	中学校 84.6%
○5年生（中学校1、2年生）までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していたと思う。	小学校	69.0%	中学校 68.7%
○学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う。	小学校	82.5%	中学校 79.4%
基本的生活習慣等			
○朝食を毎日食べている。	小学校	94.0%	中学校 90.8%
新型コロナウイルス感染症の影響			
★休校していた期間中、計画的に学習を続けることができた。	小学校	66.4%	中学校 38.8%
★休校していた期間中、規則正しい生活を送っていた。	小学校	63.9%	中学校 46.5%
I C Tを活用した学習状況			
○5年生（中学校1、2年生）までに受けた授業では、コンピュータなどのI C T機器を使用していた。	小学校	28.4%	中学校 36.6%
・ほぼ毎日と週1回以上	小学校	28.4%	中学校 36.6%
★学校で、コンピュータなどのI C T機器を、他の友達と意見を交換したり、調べたりするためにどの程度使用しているか。	小学校	47.5%	中学校 47.7%
・ほぼ毎日と週1回以上	小学校	47.5%	中学校 47.7%
★学習の中でコンピュータなどのI C T機器を使うのは勉強の役に立つと思う。	小学校	95.2%	中学校 93.9%

◎今後の対応

教育委員会といたしましては、調査結果から明らかになった児童生徒の学習や生活の状況について学習指導要領改訂の趣旨等を踏まえて分析し、教育施策の充実を図ってまいります。また、各学校の全国学力・学習状況調査を活用した児童生徒の学力向上に向けた取組の改善について、学校と保護者・地域が一体となって推進していけるよう支援してまいります。

各学校においては、調査結果報告書を作成し、保護者・地域に調査結果及び教育指導の改善等に関する情報を提供いたします。

【担当】

総合教育センター
カリキュラムセンター 担当課長
電話 844-3730